

第5学年 国語科学習指導案

授業者 加藤一樹

1 目指す言語能力 文章の構成から要旨をとらえる力

2 教材名 「サクラソウとトラマルハナバチ」 鷲谷いづみ(光村図書5年上「銀河」)

3 児童の実態

男子14名 女子9名 計23名のクラスである。

説明文の学習は、昨年度「『かむ』ことの力」と「アップとルーズで伝える」を経験している。「『かむ』ことの力」は「初め」「中1」「中2」「終わり」という構成をもっており、段落相互の関係について学習した。また「アップとルーズで伝える」では、対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成をとらえることまでを学習してきた。要旨についての学習は本単元が初めてである。

話し合い活動に関しては、昨年度3学期に「話し合って決めよう」で学習を深めた。進行役の役割や、参加者の協力的な態度などを知ることができた。話し合いの模範例としてCDを聞いたことも理解を深める一助になった。この単元を経て、複数出された意見の似ている点を見つけ数を絞っていくことで、多数決ばかりに頼らなくとも結論が出せることを学ぶことできた。5年生になってからは、合意点を見つけようとする協力的な態度が課題であるようである。反対意見を出すときばかり感情的に盛り上がったり、発言が乏しく議論が深まらない場面などが見られる。

また日常的な取り組みとしては、国語の授業の始まりに詩の音読をしているが、詩のリズム感や叙情を味わうと共に、しっかりとした発音・発声で発表できる力につなげたいと考えている。また朝の会では、「わくわくニュース発表」と題したスピーチを行っている。用紙に新聞の切り抜きを貼り、見出し、事実、感想に分けてメモを作成する。当番の児童はそのメモをもとにスピーチをするというものである。この取り組みにより新聞から大事なことを読み取る力や、筋道の通った話のさせ方を学ばせたいと考えている。

単元に先立って、説明文「カブトガニを守る」を用いて事前調査を行った。問いかけの文を見つける問題、答えの文を見つける問題を設定した。共に約3/4の児童が正答した。問い-答えの文章構成が1/4の児童には理解できていないことがわかった。本単元を通じて、復習させていく必要がある。また要旨をとらえる問題は、約1/4の児童しか正答できなかった。筆者の主張は「カブトガニを守ることは、自然を守り、わたしたちの暮らしを守ることにつながる」であったが、「カブトガニを守ってほしい」「自然を守ろう」などのように、自分の言葉で漠然とまとめる児童が多く見られた。要旨をとらえることは本単元の目標でもあるので、本単元を通じて正確にとらえることができるように指導を行っていく。

4 指導の内容と教材のかかわり(手だて)

(1) 本指導計画において意識させたい「5つの言語意識」

相手意識 ・ 4～6年生のみんなに

目的意識 ・ 守りたい絶滅の危機にある生物について調べて、自分の考えを発表する

場の意識 ・ グループでの話し合いや学級での話し合いを通して

方法意識 ・ 教科書教材で要旨のとらえ方を学習した後、自分の意見をまとめる。

評価意識 ・ 説明的文章を読んでくれた人との感想の交流。自己評価。

(2) 教材観・指導観及び学びの意欲を高めるための手だて

教材文「サクラソウとトラマルハナバチ」は、サクラソウの絶滅の危機という事象の裏に隠れているなどを、明快に解き明かしている文章である。生き物を保護するためには、つながり合って生きている生き物たちの全体を守らなければならないという主張は、児童に新しいものの見方を提供する価値のあるものであろう。内容は「問題提起」「問題の解明」「まとめ」という構成になっている。「問題の解明」は2つに分かれ、「問題の解明1」に基づいて「問題の解明2」が展開されている。また「問題の解明1」と「問題の解明2」には、それぞれ小さな問いと小さなまとめが明示されている。そういった文章構成・筆者の工夫にも着目させ、読む力を付けることを通して、論理的な思考力を育てるのに適した文章であるといえる。

指導に当たっては単元冒頭に「守りたい絶滅の危機にある生物について調べて、自分の考えを発表する」という課題設定を行う。そのねらいは、学びの必然性と意欲の向上にある。課題を設定することによって、児童は教材文を絶滅の危機にある生物に関する資料として読むだけでなく、説明の論理のお手本として読むことになる。また要点を押さえ要旨をまとめる学習は、説明の論理を学ぶための手段として必然性を持つことになるであろう。児童に、自分も書き手であることを意識させることで、意欲的に説明の論理へと目を向けさせたいと考えている。

(3) 本校の研究に関わって

国語科仮説

論理的思考力を高めるような言語活動を工夫するとともに、学び合いの場を取り入れることによって、確かな学力が身に付くだろう。

本単元では「守りたい絶滅の危機にある生物について調べて、自分の考えを発表する」という全体計画の下で、「自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する」という言語活動に取り組む。自分の考えを発表するためには、まず多くの資料を利用して正確な知識を得る必要性が生まれてくる。また得られた知識を基に自分の考えをまとめ、尚かつそれをわかりやすく表現しなければならない。そのため教材文「サクラソウとトラマルハナバチ」では、形式段落の中心文を見つけ要点をとらえる方法や、要旨をまとめる方法を学習する。また、段落構成や文末表現などに着目しながら説得の論理について学習を深めたい。また、段落毎の読みの中では、必ず少人数での話し合いの場を設定し、その繰り返しによって、伝え合い方（話し方・聞き方・話し合い方）の基本を学ばせたい。

単元後半では、筆者の主張に対する自分の意見をまとめさせる。根拠を示しながら自分の意見をまとめることで、文章構成について考えさせたいと考えている。

5 指導の目標

文章の構成から要旨をとらえる読み方を知るとともに、守りたい絶滅の危機にある動物について調べて自分の考えを持つ。

6 改善プラン・指導計画と評価計画

(1) 改善プラン

視点1 正答数分布による分析

プラン1 基礎的・基本的な知識技能を確実に習得できるような授業改善を図る。

- ・書く活動を取り入れた授業展開の工夫をしていく。
- ・伝え合う場を多く設定するような授業を行っていく。併せて伝え合い方(話し方・聞き方・話し合い方)の基本を提示し、確立させていく。
- ・読書活動を充実させる。

視点4 具体的な問題の正誤状況による分析

プラン1「読むこと」において、論理的な思考力を育てるための指導法を工夫する。

- ・はじめ・中・おわりといった文章の展開の仕方、考え方の中心となる文の置き方、意見と事実の書き分け方、順序に沿った述べ方など、構成の工夫を見いだしていくようにする。
- ・文の構成や役割をとらえて、文と文のつながりから段落や文章全体の構成を理解できるようにする。
- ・同一作者・同一テーマの複数の作品を読むようにさせる。
- ・目的に応じて段落や場面ごとに中心になる文を見つけるといった活動を取り入れ、書かれている内容をメモにまとめさせる。
- ・明確な目的や課題に基づき、様々な種類の資料を取り上げながら、必要な情報を探し、取舍選択して活用するよう指導していく。

(2) 指導計画と評価計画

指導事項	<p>イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。</p> <p>ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。</p>
この授業で身に付けさせたい基礎的な知識・技能	<p>効果的な読み方についての知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な読みの中から目的に応じて効果的な読み方を選択し、活用すること。 文章の要旨を把握することについての知識・理解 ・話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などに注意し、文章の重要な点を的確におさえること。 ・問題提起、具体的事例、主張、根拠など、文章における意味段落の役割に気付くこと。 <p>読んで疑問や自分の考えを持つことについての知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを読みとり、それに対して賛成・反対の立場から自分の考えをまとめること。 ・友だちと自分の考えの共通点や相違点に気付くこと。 <p>語句の意味や漢字の読み書きの知識</p>
言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。

読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

全 1 1 時間(読むこと) (読むこと 5 3 時間中の 1 1 時間)

次 時	指導目標及び言語活動	基礎的な知識・技能	Aの姿	Cの手だて	評価方法	主な改善プラン
一 1	「守りたい絶滅の危機にある生物について調べて、自分たちにできることを考え発表する」という学習の見通しを持たせる。	効果的な読み方についての知識・技能 ・比べ読み、速読、摘読、多読などの読み方がわかること。 語句の意味や漢字の読み書きの知識	絶滅した生物や、絶滅しそうな生物について、知っていることを積極的に発表し学習への意欲を高めている。	恐竜など絶滅した動物について知っていることを想起させる。	発言 観察 ワークシート	
二 2	段落 を読み、要点をまとめさせる。	文章の要旨を把握することについての知識・理解 ・文末表現に着目し、話題提示文をとらえること。	話題提示文を的確にとらえている。	文末表現に着目させる。	発言 観察 ワークシート	視点4プラン1
3	段落 ~ を読み、細分化された一つ目の問題について読み取り要点をまとめさせる。	文章の要旨を把握することについての知識・理解 ・「受粉の仕組み」という一つ目の問題について読み取り、形式段落の中心文を決めること。	サクラソウの受粉にトラマルハナバチが大きな役割を果たし、お互いに理想的な協力者であることを正確にとらえている。	まず段落毎の文の数を数え、中心文を決めることを指導する。	発言 観察 ワークシート	視点4プラン1
4	段落 ~ を読み、二つ目の問題について読み取り、要点をまとめさせる。	文章の要旨を把握することについての知識・理解 ・「トラマルハナバチがいなくなった理由」という二つ目の問題について読み取り、形式段落の中心文を決めること。	トラマルハナバチの一年間の生活を読み取ることを通して、トラマルハナバチがいなくなった秘密を正確にとらえている。	まず段落毎の文の数を数え、中心文を決めることを想起させる。	発言 観察 ワークシート	視点4プラン1
5 6	段落 を読み、筆者の考えを読み取らせる。教材全文全体の要旨をとらえさせる。	文章の要旨を把握することについての知識・理解 ・要旨をまとめること。	要旨を的確にまとめている。	文末表現に着目させ、筆者の主張をとらえさせる。	発言 観察 ワークシート	視点4プラン1
7	筆者の説明の仕方について話し合わせ、その工夫の効果を考えさせる。	文章の要旨を把握することについての知識・理解 ・構成の仕方に着目し、段落の役割などを考えること。	段落構成や文末表現など多くの工夫について考えを書きまとめている。	段落 の役割について考えるよう助言する。	発言 観察 ワークシート	視点1プラン1 視点4プラン1
三 8	守りたい絶滅の危機にある生物について資料を選んで、要因を読み取らせる。	効果的な読み方についての知識・技能 ・多様な読みの中から目的に応じて効果的な読み方を選択し、活用すること。	自分の課題にあった本を読み、読み取った内容を正確に書きまとめている。	目次や索引などを見て、目的にあった資料を紹介する。	発言 観察 ワークシート	視点4プラン1

9	筆者の主張に対する自分の意見を考えながら、守りたい絶滅の危機にある生物について資料から読み取らせる。	文章の要旨を把握することについての知識・理解 ・話題，理由や根拠となっている内容，構成の仕方や巧みな叙述などに注意し，文章の重要な点を的確におえること。	適切な事例を用いて、自分の意見をまとめている。	筆者の主張をふり返らせる。	発言 観察 ワークシート	視点4プラン1
10	話し合いを通し、よりよい意見文の構成方法を考えて助言させる。(友達の助言をふまえ、自分の意見をまとめ直す。)	文章の要旨を把握することについての知識・理解 ・話題，理由や根拠となっている内容，構成の仕方や巧みな叙述などに注意し，文章の重要な点を的確におえること。	友達の意見文を読み、よりよい構成の意見文にするため、改善した例をあげながら助言している。	「サクラソウとトラマルハナバチ」で学んだ筆者の意見とそれを支える事例のつながり方をワークシートでふり返らせる。	発言 観察 ワークシート	視点4プラン1
11	友達の意見文を読み、理由や根拠と意見との関係が適切か読み取る。	文章の要旨を把握することについての知識・理解 ・話題，理由や根拠となっている内容，構成の仕方や巧みな叙述などに注意し，文章の重要な点を的確におえること。	友だちの意見を参考にし、よりわかりやすい主張をまとめている。	前時のアドバイスを想起させる。	発言 観察 ワークシート	視点4プラン1

7 本時の展開

- (1) 日時 平成21年6月26日(金) 5校時(13:30~14:15)
- (2) 場所 5年2組教室
- (3) 目標 友達の意見文を読み、よりよい構成の意見文にするため助言することができる。
- (4) 指導の工夫

改善プラン

視点4 具体的な問題の正誤状況による分析

プラン1「読むこと」において、論理的な思考力を育てるための指導法を工夫する。

- ・文の構成や役割をとらえて、文と文のつながりから段落や文章全体の構成を理解できるようにする。

(5) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法，改善プラン
つかむ 5分	1. 学習の内容を確認する。 友達の意見文を読み、よりよい構成の意見文にするために助言をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を確認する。 ・前時にまとめた自分の意見文をグループで読み合い、よりよいものにすることを伝える。 	

考 え る 15 分	2．全員で話し合う。	<p>教師が用意した意見文について、良い所や改善点を話し合わせる。話し合いの観点を確認する。</p> <p>< 観点 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2枚の動物カード（動物の名前と減少の要因が記されている）に書かれた要因の共通点がまとめられているか。 ・ キーワード「つながり」が用いられているか。 ・ 自分たちができることが具体的に書かれているか。 	<p>視点4プラン1</p> <p>文の構成や役割をとらえて、文と文のつながりから段落や文章全体の構成を理解できるようにする。</p> <p>（ワークシート）</p>
学 び 合 う 20 分	3．グループで話し合う。	<p>話し合いで出された意見をメモさせる。</p> <p>事例を選び直す場合には、前時に作成した動物カードを振り返らせる。</p> <p>必要があればグループで出された課題を全体で取り上げる。</p> <p>話し合いが終わったグループは書き直し作業に進ませる。</p>	
ま と め る 5 分	4．次時の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は発表することを伝える。 	

(6) 評価

評価規準 (B)	Aの姿	Cへの手だて
友達の意見文を読み、よりよい構成の意見文にするために助言している。	友達の意見文を読み、よりよい構成の意見文にするため、改善した例をあげながら助言している。	「サクラソウとトラマルハナバチ」で学んだ筆者の意見とそれを支える事例のつながり方をワークシートで振り返らせる。